

[成果情報名] 対馬における成形駒を使ったアベマキでのシイタケ発生特性

[要約] アベマキは、うわほだになりやすく、木片駒ではコナラに比べてシイタケの発生量が少ない。成形駒を使用することでアベマキでのシイタケ発生量は増加し、コナラと同じ発生傾向を示すようになる。

[キーワード] 原木シイタケ、アベマキ、成形駒

[担当] 農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先] (代表) 0957-26-3330、(直通) 0957-26-9197

[区分] 林業

[分類] 普及

[背景・ねらい]

対馬地域では、豊富に自生するコナラを主体としたシイタケ栽培が行なわれているが、アベマキを原木に使った場合、発生量がコナラに比べて2割程度少ないと言われている。

近年、成形駒が種菌メーカーで開発され、対馬でも普及しているが、アベマキを原木に使った場合の最適な植菌密度、発生量やその推移など不明な点が多く、生産者は模索しているのが現状である。

シイタケ生産性を改善するため、原木としてアベマキとコナラ、種菌として成形駒と従来の木片駒を使い、シイタケ発生特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. アベマキはコナラに比べてうわほだが発生しやすい（表1・図1）。
2. アベマキにおいて、対馬における従来型の植菌、木片駒・植菌密度 2,000 個/m³に対する成形駒・植菌密度 4,000 個/m³でのシイタケの発生量の割合は、K115 で 147%、M290 で 148.5%である（表2）。
3. アベマキはコナラに比べてシイタケの発生量は、成形駒で多く、木片駒では少ない（表2）。
4. ほだ齢別のシイタケの発生量は、1歳木で最大となりその後減少し、4歳木では非常に少なくなる傾向を示すが、木片駒・アベマキはだけが異なり、他者に比べて1～2歳木では少なく、4歳木ではもっとも多くなる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. アベマキは、コナラに比べてうわほだになりやすく、落葉前の適切な時期に原木伐採を行うこと。
2. 木片駒・アベマキ以外は、ほぼ同じ発生傾向を示すので、ほだ場の管理が計画的に行える。

[具体的データ]

表1 うわほだの発生状況

単位: 本			
	うわほだ	通常	合計
アベマキ	19	17	36
コナラ	7	29	36

* 3月植菌、10月割材調査

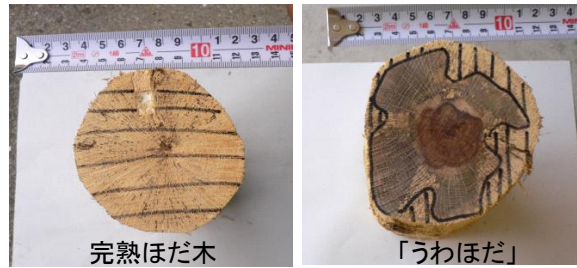


図1 ほだ化状況

表2 樹種別・種菌形状別の発生量

種菌形状	樹種	品種	植菌密度 (個/m ³)	発生量 (kg/m ³)	アベマキ/コナラ(%)	成形駒/木片駒(%)
木片駒	コナラ	K115	2,000	① 86.83		
		M290	2,000	② 97.51		
	アベマキ	K115	2,000	③ 62.55	③/① 72.0	
		M290	2,000	④ 81.50	④/② 83.6	
成形駒	コナラ	K115	4,000	⑤ 82.54		⑤/① 95.1
		M290	4,000	⑥ 113.87		⑥/② 116.8
	アベマキ	K115	4,000	⑦ 91.97	⑦/⑤ 111.4	⑦/③ 147.0
		M290	4,000	⑧ 121.03	⑧/⑥ 106.3	⑧/④ 148.5

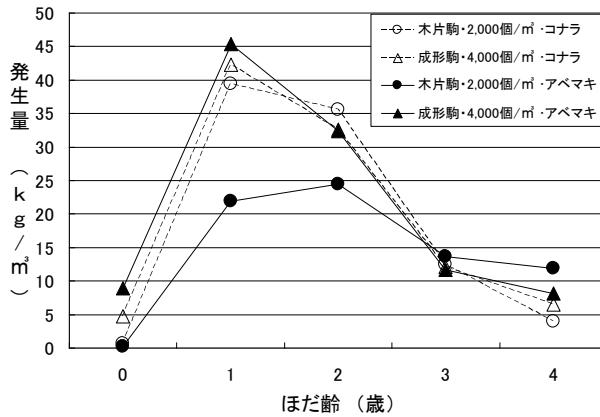


図2 ほだ齢別シイタケ発生量

付表 アベマキ原木での成形駒使用による収益性の改善試算(原木1m³あたり)

品種	発生量(生重:kg)			単価 ④ (円/kg乾重)	売上差 ⑤(円) ③×0.13×④	種駒コスト ⑥(円)	収入差 ⑦ ⑤-⑥(円)	植菌量成形駒10万個の生産者では
	木片駒 ①	成形駒 ②	差 ③(②-①)					
K115	62.55	91.97	29.42	3,500	13,386	5,600	7,786	194,653
M290	81.50	121.03	39.53		17,986		12,386	309,654

※ 乾燥歩留まりは、13%とした。乾重=生重×0.13

種駒コスト	木片駒	成形駒	差
	5,600	11,200	-5,600

[その他]

研究課題名：対馬しいたけのブランド確立のためのアベマキによる栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2005～2009年度

研究担当者：田嶋幸一、久林高市